

災害ソーシャルワークと生活困窮者支援

障がい者の減災対策

一 大和市の当事者、事業者向けアンケート結果
にみる現状と課題 一

社会福祉法人 やまねっと
計画相談支援室・相談員

社事大通信教育科社会福祉士養成課程 2003 年卒

星野宗吾

本アンケートの実施は、大和市自立支援協議会
身障部会が、障がい者及びその家族の減災対策を
進めていくために、障がい当事者・家族、障がい
者向けに福祉サービスを提供している事業所を対
象に実施されました。

調査の方法・調査対象

身障部会タスクフォースがアンケート案、実施
案を作成し、身障部会に提案しました。結果報告
についても同様です。

- 1) 当事者アンケートに関しては、大和市在住
の福祉サービス事業利用者、養護学校在籍
者の家族、身障協会登録者、肢体不自由児
者父母の会登録者、870 名へ事業所、学校、
団体を通して配布依頼しました。事業所、
郵送による回収で、回収数 410 人。回収率
47.1%。
- 2) 事業所アンケートに関しては、大和市内の障
がい児者福祉サービス事業所、33 事業所へ
配布依頼、33 事業所からの回収で、回収率
100%。
- 3) 実施期間 平成 25 年 11 月 1 日～12 月 20
日

結果と考察

当事者用アンケート結果

1. 災害時要援護者支援制度について

(1) 認知度

「災害時要援護者支援制度」があることを知っ
ていますか？

- ① 知っていて登録している
回答数 121 構成比 29.5%
- ② 知っているが登録はしていない
回答数 86 構成比 21.0%
- ③ そんな制度があること聞いたことがある
回答数 66 構成比 16.1%
- ④ まったく知らない
回答数 134 構成比 32.7%
- ⑤ 無回答
回答数 3 構成比 0.7%

「知っているが登録はしていない」と答えた人へ、
登録していない理由はなぜですか？(複数回答可)

- ① 支援は必要だが、登録が面倒そう
回答数 7 全回答者比 8.1%
- ② 近隣に障がいのことをあまり知られたくない
回答数 4 全回答者比 4.7%
- ③ 家族や知人で支援してくれる人がいる
回答数 38 全回答者比 44.2%
- ④ 自力である程度何とかできると思う
回答数 15 全回答者比 17.4%
- ⑤ 登録の必要を感じない
回答数 4 全回答者比 4.7%
- ⑥ 登録しても援護支援してもらえるか疑問
回答数 20 全回答者比 23.3%
- ⑦ その制度はうまく機能するか疑問がある
回答数 22 全回答者比 25.6%
- ⑧ 自治会に加入していないから
回答数 6 全回答者比 7.0%
- ⑨ その他
回答数 15 全回答者比 17.4%
- ⑩ 無回答
回答数 7 全回答者比 8.1%

記述では、「自治会の機能がまだ出来ていないと市から聞いたので、やめました」

「ずいぶん前に市からの手紙で登録しましたが、その後どうなっているのか判りません」

がある。

[考察]

登録後のフォローが不十分か全くない、と感じている人が多い。このままでは制度事態が危ない。

登録の意思についての質問では、「今後、登録し情報提供に同意したい人」が28.0%、「もっとこの制度のことを理解してから、登録するかどうか決める」が48.0%、「何の制度か意味が分からない」が9.5%となっている。

この制度についての理解が不十分な人が多い。行政や地域自治会等による周知が課題である。

2. 安否確認について

1) 自分の安否確認をしてほしい人は？

「自分の安否を確認してほしい人はどなたになりますか？」(複数回答可)

- ① 一緒に住んでいる家族
回答数 357 全回答者比 87.1%
- ② 一緒に住んでいない家族
回答数 117 全回答者比 28.5%
- ③ 近所・自治会・民生委員・地区社協の人
回答数 69 全回答者比 16.8%
- ④ 知り合いのボランティア
回答数 11 全回答者比 2.7%
- ⑤ 知人・友人
回答数 59 全回答者比 14.4%
- ⑥ 属している障がい者団体
回答数 44 全回答者比 10.7%
- ⑦ 利用している福祉サービス事業所
回答数 130 全回答者比 31.7%
- ⑧ 市役所・保健福祉事務所・市社協職員
回答数 46 全回答者比 11.2%
- ⑨ その他
回答数 9 全回答者比 2.2%
無回答 回答数 14 全回答者比 3.4%

[考察]

家族に安否確認が期待できない人達は、利用し

ている事業所、近隣の人・地域の役員、知人・友人に期待している。共助の対象として期待されている人達の受け止める体制は出来ているのかは、課題。

又、自治会レベルでの情報の機密保持が安全なのか、個人情報きちんとして管理できるのか、地域の障がい児者への理解を進めていくことが大事。

3. 避難場所、避難所について

1) 避難場所、避難所の認知度

「自分の地域の一時避難場所（最初に避難できる場所）、広域避難場所（火災から身の危険を守る所、指定避難所（家が倒壊などして住めなくなった人が避難する所、特定指定避難所（特に障がい者など要援護者が避難する所、福祉避難所ともいう）を知っていますか？））」

自分の地域の一時避難場所、広域避難場についての認知は、

① 知っている、② なんとなく分かっている、でそれぞれ75.3%、68.1% であるが、指定避難所、特定指定避難所の認知は、①、②でそれぞれ44.2%、23.4%と低くなる。

[考察]

地域の一時避難場所、広域避難場所、指避難所、特定指定避難所が、それぞれどういう目的の場所か、どこにあるのか、の広報がもっとなされる必要を感じる。

2) 避難場所および避難所への移動

「避難場所および避難所への移動に、だれかの支援が必要ですか？」

- ① 移動に支援が必要である
回答数 266 構成比 64.9%
- ② 自分で何とか移動できる
回答数 123 構成比 30.3%
- ③ 無回答
回答数 21 構成比 5.1%

[考察]

災害発生時の移動支援の対策が必要。地域や学校、施設等の防災訓練時に実技演習を入れると効果があるのではないか。

3) 避難場所および避難所での生活

「避難場所および避難所で生活する場合、気になること、心配なことは、次のどれですか？」

(複数回答可)

気になること、心配なこと、を全回答者数で上から順にみると

- ①「トイレのこと」 285人 69.5%
- ②「自分の障がいについてまわりの理解があるかどうか」 274人 66.8%
- ③「食事のこと」 257人 62.7%
- ④「特定の物品が手に入るかどうか」 194人 47.3%
- ⑤「情報伝達のしかた」 191人 46.6%
- ⑥「次々と避難を繰り返すことにならないかどうか」 167人 40.7%
- ⑦「プライバシー」 159人 38.8%
- ⑧「避難場所内および避難所内の移動」 153人 37.3%
- ⑨「静かな場所かどうか」 135人 32.9%
- ⑩「避難所内の居住場所（通路、本部近く等）」 126人 30.7%
- ⑪「同一障がい者毎、居住場所がまとまっているか」 104人 25.4%
- ⑫「避難所内は小さな区割りになっているか」 104人 25.4%
- ⑬「同性による援助が得られるかどうか」 88人 21.5%

この設問のその他には以下のことが挙げられている。

「おむつ、薬等の確保の心配」

「自閉症、自閉的傾向のある人の心配」

・・・たくさんの人がいる場所だと落ち着かず、自傷、大きな声で泣いたりします。障がい児者へのサポートを強く望みます。

「医療の対応」

・・・近くに医療機関があるかどうか。重度心身障害児（全介助、胃ろう、気管切開、てんかん、呼吸不安定）があり、体調を崩すと命の危険があるため、緊急医療施設への搬送方法、受け入れ状況、全てが不安である。

「家族がバラバラにならないか」

・・・特定指定避難所に行けるのは、障がい者1名とその介助者1名のみと聞いています。その場合、家族（兄妹）と離れることになるので、それならば、少し大変でも我慢して、家族全員が同じ指定避難所に残ることの方が不安が少ないと考えられる。

「設備他」・・・自分のいる場所があるか。入浴設備、貴重品を置く場所等があるか。

【考察】

東日本大震災の時の避難場所、避難所生活の様子を伝聞しての心配なこととなっているのではない。

4. 災害時への備えについて

(1) 自身の備え

「災害時に備えてどのような備えをしていますか？」(複数回答可)

全回答者数で上から順にみると

- ①「医薬品、食糧、飲み水、懐中電灯、着替え等持ち出し品のリストアップ」 164人 40.0%
- ②「寝室に倒れてくるものは置かないようにする」 159人 38.8%
- ③「家具の転倒防止策（タンスに転倒防止の金具をつけるなど）」 138人 33.6%
- ④「自分の安否を確認してくれる人の確保」 120人 29.3%
- ⑤「自分の障がいについて、近隣の人に知ってもらおうこと」 107人 26.1%
- ⑥「防災訓練への参加」 82人 20.0%
- ⑦「障がい者自身の支援に必要な情報をまとめたある手帳などの準備」 53人 12.9%
- ⑧「避難場所・避難所への移動支援者の確保」 29人 7.1%

この設問のその他には、以下のことが挙げられている。

「寝室に倒れてくるものは置かないようにしたいと思っているが、部屋が狭いため難しい」

「報道、サイレンなど聴けず、とっさになにをすればよいか不安」

「災害時に備えて、持っていくものや停電、断水、

食糧備蓄等の用意をしていますか？」

- ① 用意している
回答数 46 構成比 11.2%
- ② ある程度用意している
回答数 189 構成比 46.1%
- ③ ほとんど用意していない
回答数 140 構成比 34.1%
- ④ 何を用意しておいたらよいか分からない
回答数 26 構成比 6.3%
- ⑤ 無回答 回答数 9 構成比 2.2%

[考察]

障がい者自身、災害に備えてほとんど用意していない人達が40.4%という実態がある。

(2) 情報伝達への備え

当事者の自由記述から

- 字が読めなかったり、言葉でコミュニケーションが取れない人のために視覚的支援があるとよい。
- 私は視覚障がい者です。災害になった時、どこまで正しい情報が自分たちの所に届くのか心配です。
- 支援者と離れた場所になってしまった時の情報伝達が心配。

[考察]

障がい者の立場に立って、どう情報を提供していくのか、行政、地域の自治会、社協、学校、施設、病院、当事者団体等の関係機関が情報提供のあり方について検討・準備しておく必要がある。

事業所用アンケート結果

1. 災害時の利用者への対応について

「サービス提供中で、利用者が事業所、作業所にいる場合の対応は？」(複数回答可)

- ① 状況確認をする
回答数 28 全回答者比 90.3%
- ② 利用者の安否状況を事業所本部、家族に報告
回答数 27 全回答者比 87.1%
- ③ 利用者の安全を確保する
回答数 27 全回答者比 87.1%
- ④ 利用者の応急措置をとる
回答数 23 全回答者比 74.2%

⑤ 支援者は状況が安定するまでその場に留まる
回答数 25 全回答者比 80.6%

⑥ 無回答 回答数 2 全回答者比 1.5%

「サービス提供中で、ヘルパーが居宅支援中や移動支援中等の場合の対応は？」(複数回答可)

- ① 状況確認をする
回答数 15 全回答者比 83.3%
- ② 利用者の安否状況を事業所本部、家族に報告
回答数 14 全回答者比 77.8%
- ③ 利用者の安全を確保する
回答数 12 全回答者比 66.7%
- ④ 利用者の応急措置をとる
回答数 9 全回答者比 50.0%
- ⑤ 居宅支援中は状況安定までその場に留まる
回答数 12 全回答者比 66.7%
- ⑥ 移動支援中は状況で留まりその後同行して帰途
回答数 11 全回答者比 61.1%

[考察]

サービス提供中でも、居宅支援中や移動支援中等での対応が、事業所、作業所にいる場合に比べて安全確保、応急措置面で弱い。ヘルパーの多くが非常勤である状況から、業務指示が出しにくいのが原因ではないか。

2. 市行政への要望について

「障がい者の減災対策上、市行政への要望にはどのようなことがありますか？」(複数回答可)

- ① 災害対策本部設置時、障がい者担当職員配置
81.2%
- ② 障がい者への災害時対応に関する情報の周知
78.1%
- ③ 市と事業所との災害時協定を整理し、明示
32.0%
- ④ 災害時安否確認についての情報の集約管理
46.9%

謝辞

視覚障がい者当事者の鳥原信一氏
(タスクフォースのメンバー：慶応義塾大学 SFC 研究所)